

Press Release

プレスリリース

2008年12月18日

株式会社日本医療データセンター

報道関係各位

日本医療データセンター 『JMDC データで読むヘルスケアレポート』 vol. 13

「睡眠時無呼吸症候群」、肥満と高血圧患者は要注意 ～「肥満+高血圧」はリスクが6倍～

医療データベースの構築・分析及び健康保険組合へのソリューション提供を行う、株式会社日本医療データセンター（東京都千代田区、代表取締役：木村 真也）が実施した調査によると、睡眠時無呼吸症候群（SAS）*で受療している人で「肥満＆高血圧」の人は、どちらにも該当しない人に比べて、6倍にのぼることがわかりました。

この調査は男女 30～59 歳を対象に実施されたもので 60,526 人のレセプト**データから、睡眠時無呼吸症候群の有無別に BMI の平均値を比較しました。その結果、睡眠時無呼吸症候群を発症していない人の BMI 平均値は男性 23.6、女性 21.5 に対し、睡眠時無呼吸症候群と診断された人の BMI は男女とも 24.6 以上と肥満傾向にあることがわかりました。

また、睡眠時無呼吸症候群の有無別に最高/最低血圧の平均値を確認したところ、睡眠時無呼吸症候群と診断された人の平均血圧値は高い傾向にありました。

これらの調査結果から、睡眠時無呼吸症候群で受療している人を、高血圧、肥満（BMI25 以上）、肥満＆高血圧、どちらにも該当しない（標準）に分類し比較したところ、標準の人に比べて高血圧症は 1.5 倍、肥満は 4.5 倍、肥満＆高血圧の人は 6 倍もの差があることがわかりました。

*睡眠時無呼吸症候群（SAS）：7 時間の睡眠中に 10 秒以上の無呼吸が 30 回以上起こる。

または、睡眠 1 時間あたりの無呼吸数や低呼吸数が 5 回以上起こること。

**レセプト 診療報酬明細書のこと

この分析から、北里大学医学部 佐藤敏彦准教授（公衆衛生学）は、以下のようにコメントしています。

「睡眠時無呼吸症候群は睡眠中の無呼吸状態や大きないびきが症状として表れます。ですが、本人が症状に気付くことはなく、家族など周囲から指摘され受診する場合がほとんどです。睡眠時無呼吸症候群は肥満が関係している場合があり、肥満で首周りに脂肪がつくと空気（呼吸）の通り道が狭くなるため、熟睡感が得られにくくなります。その為、起床時の頭痛や日中の強い眠気・倦怠感などがあります。また、夜間でも交感神経が興奮し、睡眠中でも血圧が高くなり『1 日中血圧が高い状態』になることもあります。そういった状態を放置しておく、さらに症状を悪化させ、脳血管疾患や心疾患を起こすリスクが増えます。まずは生活習慣を見直し、適正体重に戻しましょう。」

■ 本件に関する問い合わせ先

株式会社日本医療データセンター ヘルスケア事業部 担当 小沼・大澤

メールアドレス：FAQ@jmdc.co.jp (TEL)：03-3511-6781 (FAX)：03-3511-6782

Press Release

プレスリリース

◆資料

■年代別 睡眠時無呼吸症候群(SAS)有無別 BMI 平均値比較

	30歳代		40歳代		50歳代	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
SAS有り	27.3	24.6	27.2	27.6	26.0	27.2
SAS無し	23.5	20.9	23.8	21.8	23.6	22.3

(分析期間:2006年4月~2007年3月 分析対象:30~59歳の男女60,526人のレセプトデータ)

■年代別 睡眠時無呼吸症候群(SAS)有無別 血圧平均値比較(単位:mmHg)

	30歳代		40歳代		50歳代	
	最高血圧	最低血圧	最高血圧	最低血圧	最高血圧	最低血圧
SAS有り	126	77	131	80	130	81
SAS無し	121	72	124	76	129	79

(分析期間:2006年4月~2007年3月 分析対象:30~59歳の男女生活習慣病60,097人のレセプトデータ)

■高血圧、肥満有無別 睡眠時無呼吸症候群(SAS)受療率の違い

標準	高血圧症	肥満	肥満&高血圧症
0.2%	0.3%	0.9%	1.2%

【疾患定義】高血圧症:最高血圧130mmHg以上、最低血圧85mmHg以上 肥満:BMI25以上 標準:どちらにも該当しない

(分析期間:2006年4月~2007年3月 分析対象:30~59歳の男女生活習慣病60,097人のレセプトデータ)

■関連情報

メタボリックシンドローム対策レシピ「Pep! eco-recipe(エコレシピ)vol.19」に詳しい情報が掲載されています。

詳しくはこちら: <http://www.jmdc.co.jp/eco-recipe>

◇JMDC データで読むヘルスケアレポートとは

株式会社日本医療データセンターが発表するレポートで、同社独自の技術を用いた JMDC データ*を利用して、リアルな患者のデータから、日本人の健康や疾病の傾向を分析するものです。

*JMDC データ: 株式会社日本医療データセンターが約33万人(2007年11月現在)の健康保険組合加入者から収集した健康診断の情報やレセプト情報を解析したデータ。個人を特定しないよう加工され、時系列での処理が可能のため、治療の経過などを疫学的に検証することが可能。

◇日本医療データセンター(<http://www.jmdc.co.jp/>)

個人を特定しない医療データ生成・分析を行うことができる、日本で初めての会社として、健康保険組合および製薬会社などにデータ活用ソリューションを提供しています。かつては個人情報の問題と、医療機関ごとに異なる用語やフォーマットによりデータとして利用することが難しかったレセプトですが、日本医療データセンターでは、これまで約1,080万件(2008年3月末時点)のレセプトデータの処理実績で培ったノウハウから、傷病、医薬品、診療行為、投薬などの分析マスターを独自で作成いたしました。本年4月から開始された特定保健指導の本格的実施により、データの基盤整備と解析手法のニーズが拡大していきます。日本医療データセンターは、こうした施策を改善に繋げるために、「データによる検証」を提言し一翼を担ってまいります。